

ご存じですか！文化財

45

「星福寺十三仏板碑」

市指定有形文化財
平成5年12月1日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1221)



所在地 旗井192-1

この板碑(青石塔婆)は、星福寺(旗井)の本堂の木枠に入り安置されています。いつの頃かは分かりませんが、旗井の本村の池から香林寺落しに入る堀を浚っているとき、板碑の上半分が出土したとのことです。下半分が欠落しているので造立の目的・年代は不明ですが、十三仏信仰が南北朝から室町時代にかけて全国的に広まったことから、その頃ではないかと推定されます。

十三仏信仰は、中国から伝来した十王仏信仰に阿闍・大日・虚空蔵の三仏が加えられ十三仏信仰として成立しました。十三仏信仰では、死者の中陰(人の死後四九日間)ならびに周忌の法要(法事)に

際し本尊となる仏像です。すなわち、初七日は不動明王、二七日は釈迦如来、三七日は文殊菩薩、四七日は普賢菩薩、五七日は地藏菩薩、六七日は弥勒菩薩、七七日は薬師如来、百か日は観音菩薩、一回忌は勢至菩薩、三回忌は阿弥陀如来、七回忌は阿闍如来、十三回忌は大日如来、十三回忌は虚空蔵菩薩です。

板碑の上部には、天蓋および主尊の虚空蔵菩薩が線刻の仏画で、脇侍の日光・月光並びに他の六仏は種子の梵字で蓮弁上に刻まれています。初七日から六七日の本尊が梵字で記されている部分が欠落しています。画像は美術的にも繊細優美で県下でも希少なものです。また、十三仏信仰を知る上でも貴重な考古資料です。



紹介者 小沼良市さん(旗井)